

日本在宅 医学 会誌

Vol.17 No.2

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言			
「地域包括ケアの面展開」における本学会員の役割について	前田 憲志	1	
○原著			
自施設において在宅看取りを行った独居がん症例に対する在宅緩和ケアの実態調査	上林 孝豊, 小笠原 文雄, 田貫 武弥, 臼井 曜子, 小笠原真雄	5	
訪問リハビリテーション従事者が経験したリハビリテーションが中止に至った疾患および病状変化の気づきについて	平野 康之, 井澤 和夫, 冨田 勝義, 川間 健之介	11	
○報告			
在宅で取り組んだリハビリテーション栄養の経験	諸富 伸夫, 安武 哲生, 神山 一行	17	
○特集「神経難病」			
巻頭：特集にあたり	横山 和正	21	
難病新法元年を迎えて	小早川優子, 吉良 潤一	23	
難病相談支援センターとNPO法人との協働作業—新潟県における取組—	西澤 正豊	27	
神経難病のリハビリテーション 医療保険 —神経難病の特徴を踏まえた回復期リハビリテーション—	杉田 之宏	31	
パーキンソン病の最新リハビリ療法	林 明人	39	
神経難病のリハビリテーション 介護保険 —地域包括ケアシステムにおいてリハビリテーションが目指すもの—	石垣 泰則, 杉山 育子	43	
神経難病の在宅言語聴覚療法	藤田 賢一, 森若 文雄	49	
神経難病患者の口腔ケア —実践と実際の注意事項, 歯科医との連携, 肺炎予防のエビデンス, 栄養との関わり—	原 龍馬	55	
神経難病患者の就労・社会参加	春名由一郎	59	
神経難病ネットワークの実際とその問題点 神経難病の緩和ケア	荻野美恵子	65	
神経疾患療養者の在宅看取りを病理解剖を通して活かす試み —中野総合病院を中心とした予備的研究—	内原 俊記, 融 衆太, 佐藤志津子, 小林 高義, 中村 洋一, 明石 巧, 横田 隆徳, 北川 昌伸, 廣川 勝彦	71	
神経難病療養者を在宅で穏やかに看取るためのポイント, 医師教育と患者家族への対応	川島孝一郎	79	
査読者一覧	87	日本在宅医学会雑誌投稿規定	88
投稿承諾書	89	連絡票	90
編集後記	91		

「地域包括ケアの面展開」における 本学会員の役割について

日本在宅医学会 代表理事 前田 憲志

平成30年に向けて、全国各地域で「市町村を単位として地域包括ケア体制を構築する事」が推進されています。全国各地で「地域包括ケアシステム」が遍く構築されるには、「在宅医療」の経験豊富な本学会員の皆様方のリーダーシップが求められています。各市町村や医師会からの要請には是非とも積極的にご協力を頂き、各地域の特性に適合した高齢化社会を支える制度作りに力を発揮して頂きたいと存じます。「地域包括ケア方式」が制度として構築されるためには、行政・医師会を中心とした基本骨格作りが第一歩であります。以下のように様々な課題が含まれています。

1. 受益者にとって優れた効果を発揮する「機能体」として各地域で活動されるためには、「かかりつけ医」「急性期病院」「その他の地域病院」からの「在宅医療」への流れを理解し、地域の医療資源を枯渇させることなく、「地域包括ケアシステム」を夫々に支える役割分担の構築を目指す事。
2. 地域包括ケアは継続した機能を維持し、かつ必要に応じて柔軟に変革し得る機能を有する事。
3. 体系化された制度を構築し、維持して行くには「所掌する機能体」が必要不可欠で、地区医師会に委員会や所掌する人員の配置が行われる事。
4. 「在宅医療・看護・介護」の質の均てん化を図る制度作り。

一つの試みとして、「在宅療養支援アセスメント方式」がこの機能を担う方式として行われています。本学会には専門医認定制度もあり、質の向上を図る努力を続けて来ておりますが、在宅医療の場で対応する症例については多種多様であり、診断機器も少ない場での診療であり、主治医の要望に応じて短期間にアセスメントを行い、診断結果に基づき、診療方針を提示頂ける病院等の存在は極めて大きい効果を発揮しています。この在宅療養アセスメント機能を担って頂ける病院等を、各地区で要請して頂くことも重要な課題であります。

さらに、「地域包括ケア」は未だ始まったばかりの制度であり、無駄の少ない、受益者に更に信頼され、喜ばれる制度への軌道修正を繰り返して行くことが不可欠な課題であります。そのためには、「現状の評価」を「科学的」に行い、かつ「将来に向けた改良点」を示す機能も併設して行くことが重要であると考えられます。名古屋市の場合は、この機能を「在宅療養支援アセスメント機能」を担って頂ける病院にお願いしており、同意の得られた症例についてデータを提供頂き、市医師会の在宅医療担当部署において蓄積される試みが進められています。データの解析評価やその結果に基づく提言については、研究者や有識者の方々にお願いする方向で検討が進んでいます。「地域包括ケアのデータベース構築」は、今後の高齢化や脆弱性を有する方々の医療・看護・介護制度の在り方を指し示す重要な指標となり得るものでありますが、広域での統一規格に基づいたデータ収集が不可欠な課題であります。「在宅医療」は古くから行われて来ましたが、「在宅医学」として科学的に進歩し始めてからの歴史は浅く、最近では多くのクリニカルクエッションが提示されてきており、これらを科学的手法を用いてエビデンスとして明らかにしていかなばなりません。一方、在宅医療に携わる医師は多忙な勤務に従事されており、単独で研究に従事される事は難しい状況にあります。従って、本学会においても課題を抽出し、大学等の研究機関と協働して成果を上げていく必要があります。本学会の皆様方には、多忙な勤務の中におありとは存じますが、リサーチマインドを持って課題を抽出して頂きたいと存じます。また、各地区の活動の場においても、前述の「在宅療養アセスメント方式や、その制度を利用したデータベース作成」等につきましても、皆様方のご尽力・ご協力をお願い申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。